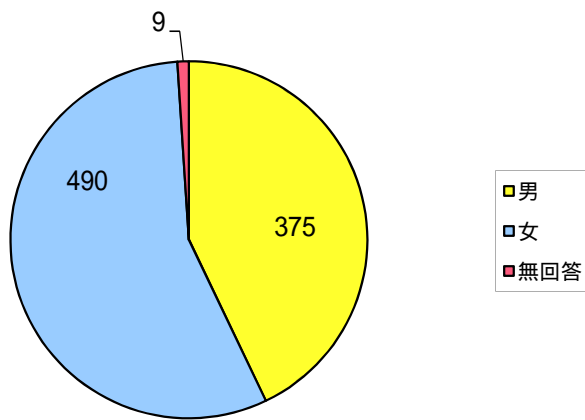
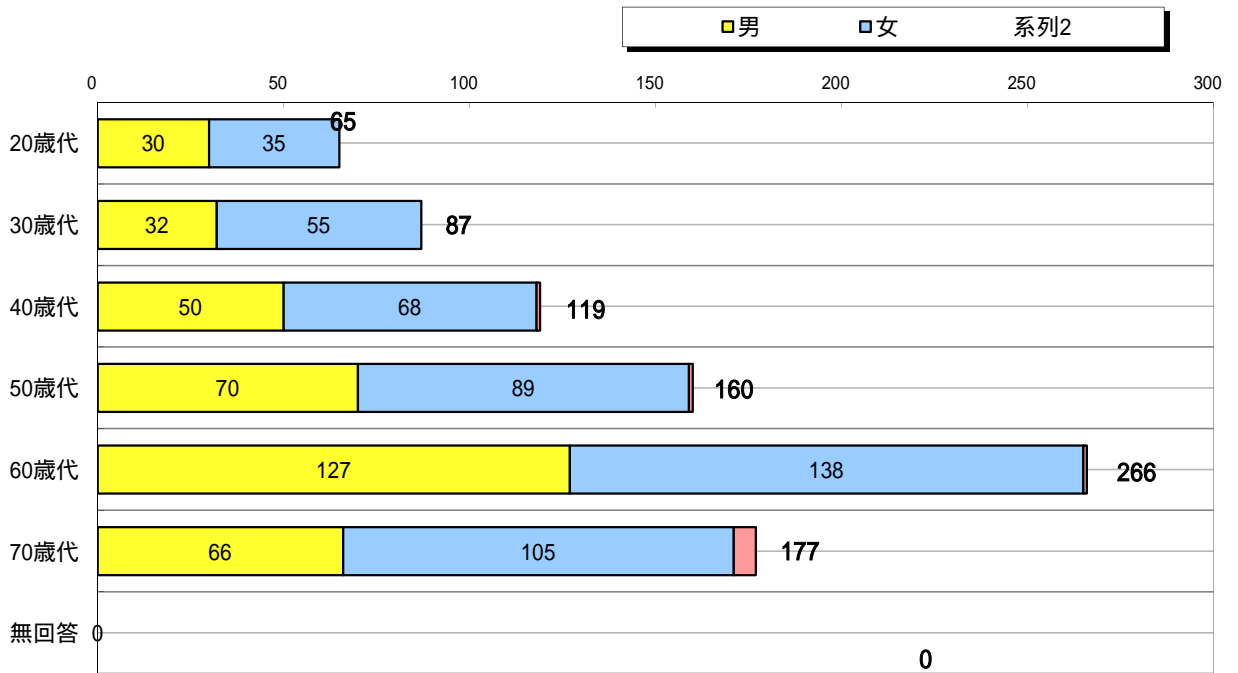


市民アンケートについて

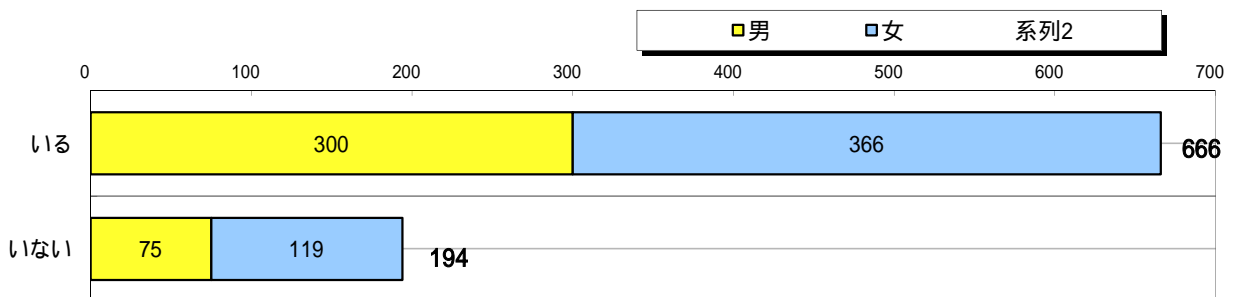
問1 性別



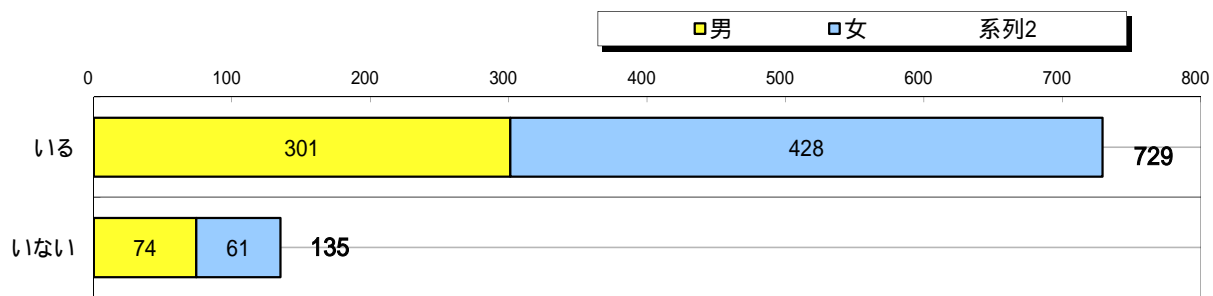
問2 年代別 男女比



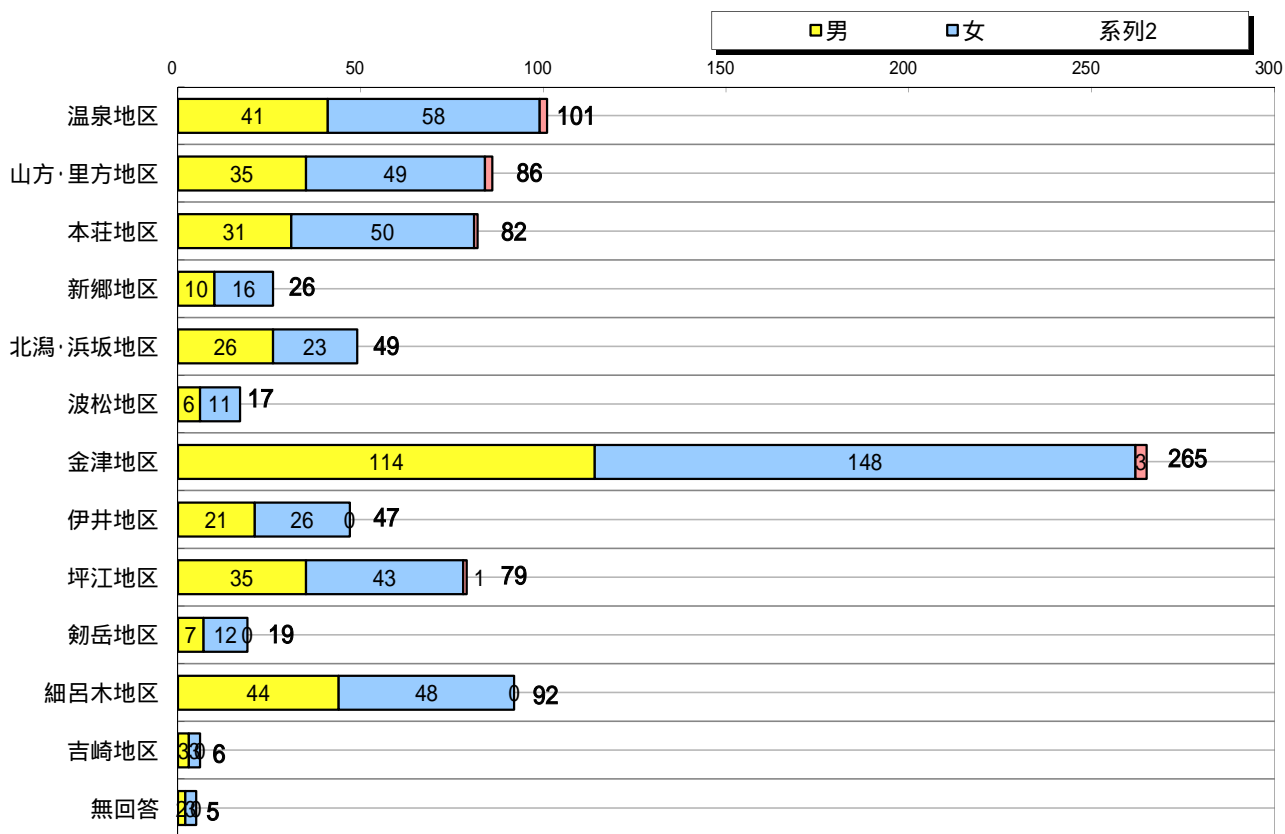
問3 配偶者の有無



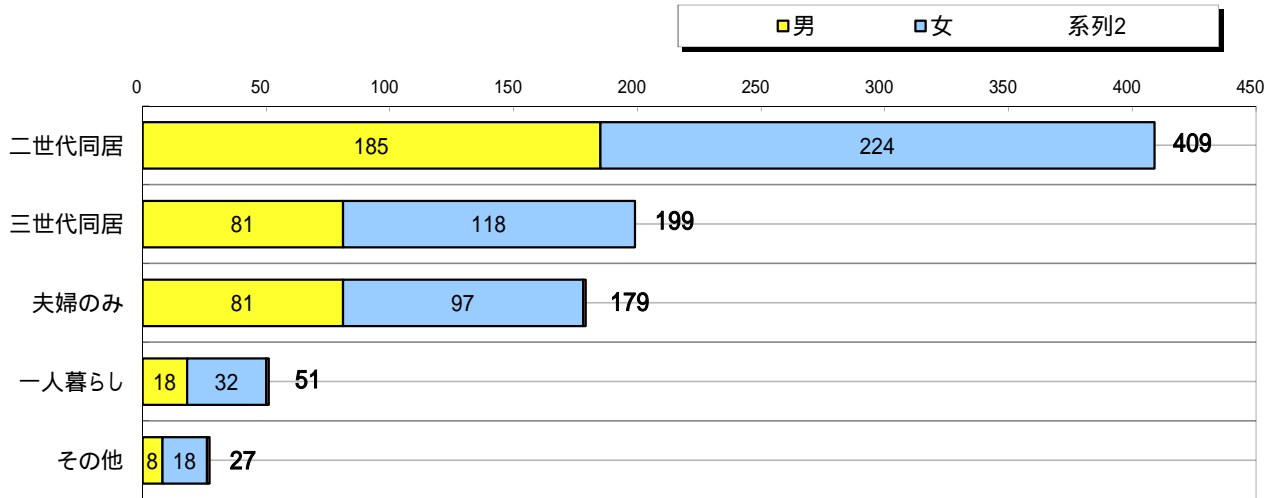
問4 子どもの有無



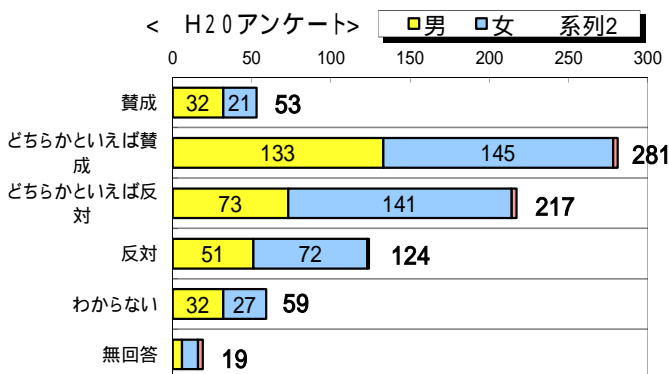
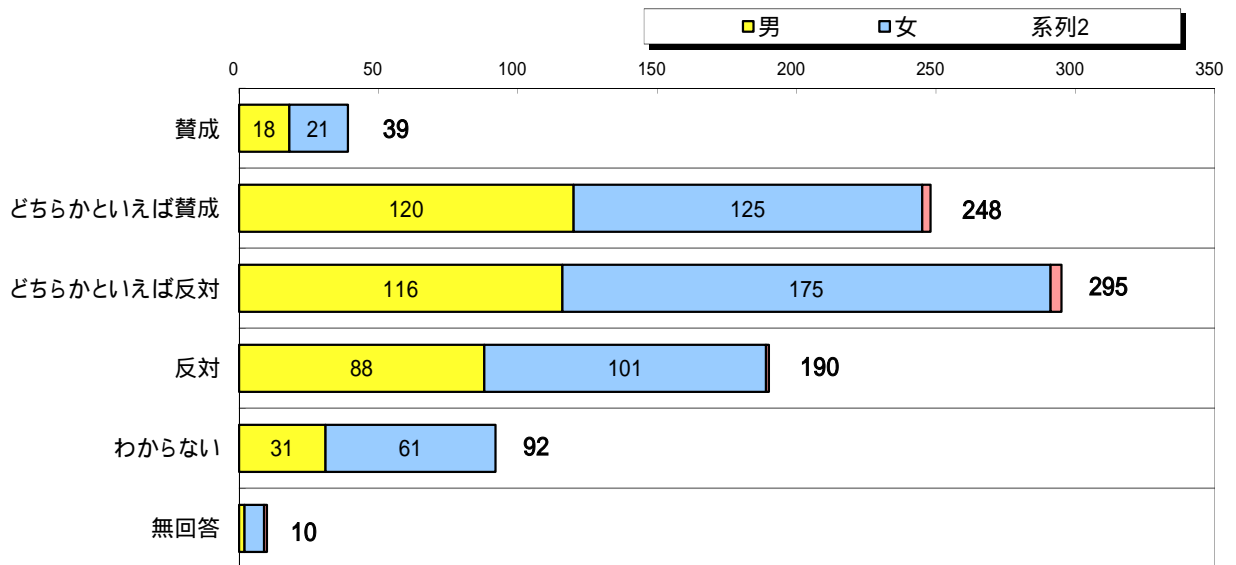
問5 住んでいる地区



問6 家族構成



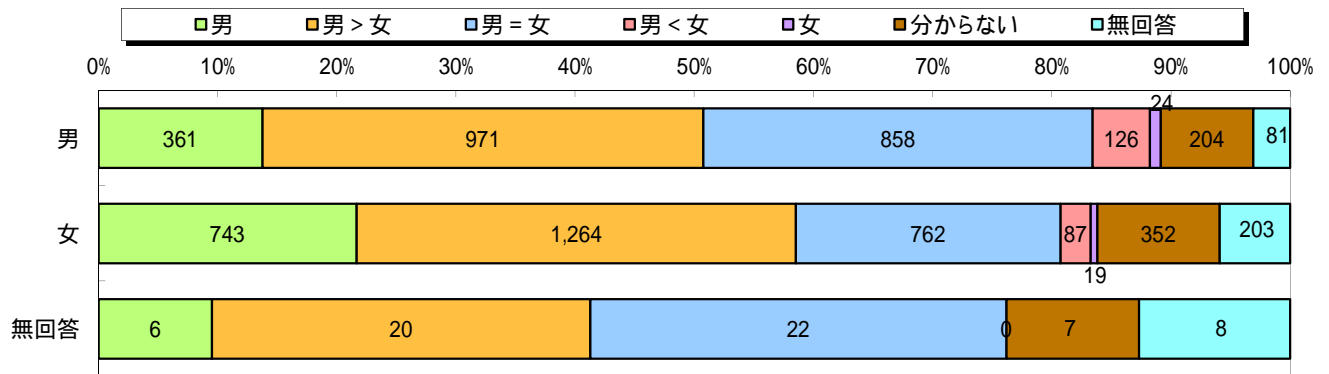
問7 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



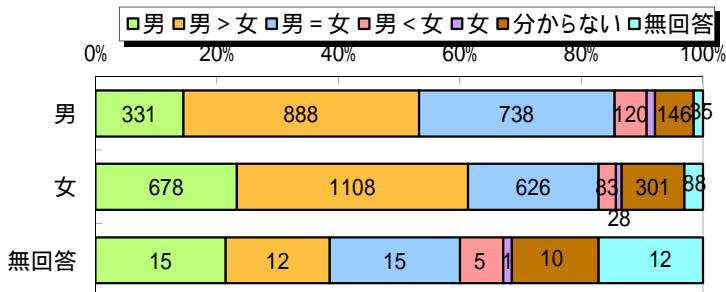
【分析】
 本調査では「賛成」・「どちらかといえば賛成」が32.9%、「反対」・「どちらかといえば反対」が55.5%であり、「男は仕事、女は家庭」の考え方に反対する意見が、賛成意見を22.6ポイント上回った。
 平成20年度調査と比較すると、賛成意見は11.4ポイント減、反対意見は10.2ポイント増となっている。

平成20年度調査では、「賛成」・「どちらかといえば賛成」が44.3%、「反対」・「どちらかといえば反対」が45.3%であった

問8 男女の地位の平等について(全体)



< H20アンケート >

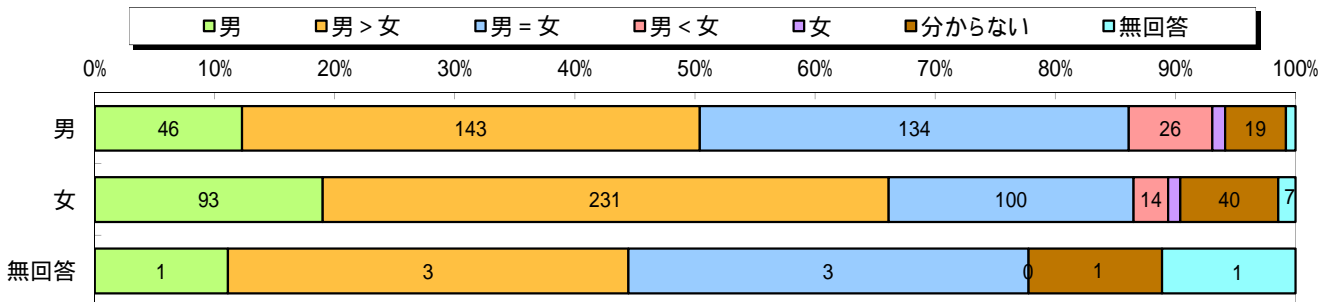


【分析】

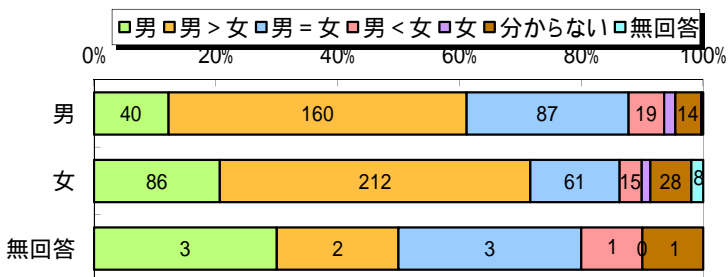
あらゆる場面を総合して、「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は55.0%、「平等」は26.8%、「女性が優遇されている」・「どちらかといえば女性が優遇されている」は4.2%となっており、過半数が、男性が女性よりも優遇されていると感じていることが見て取れる。しかし、平成20年度と比較すると、わずかだが男女ともに「平等」であると感じる割合が高くなっている。

平成20年度調査では「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は57.5%、「平等」は26.2%、「女性が優遇されている」・「どちらかといえば女性が優遇されている」は5.1%であった。

問8 男女の地位の平等について(個別 A:家庭生活では)



< H20アンケート >

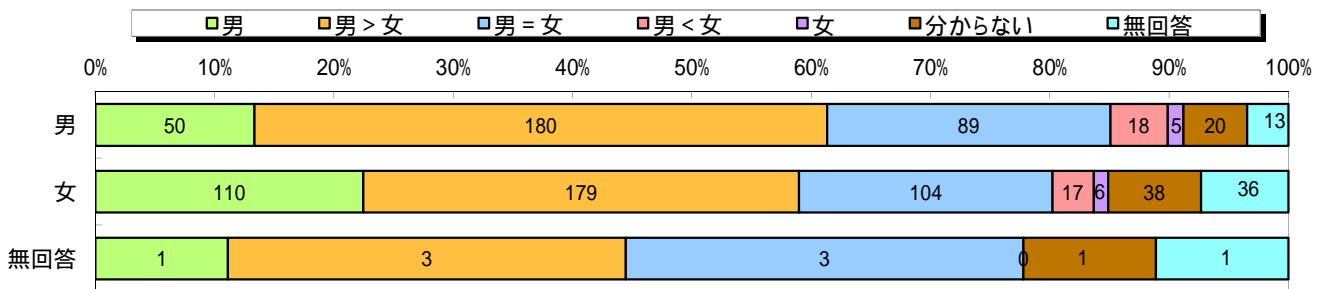


【分析】

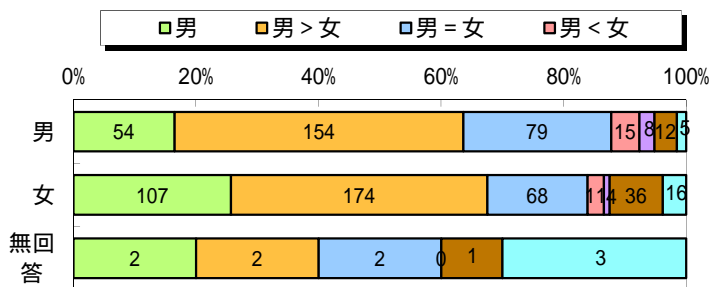
家庭生活において「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は全体の59.2%、「平等」は全体の27.1%であった。また、「平等」と回答したのは、男性で35.7%、女性で20.4%であった。約6割が家庭生活において男性が優遇されていると感じているが、平成20年度調査時に比べ、男女ともに「平等」であると感じる割合が高くなっている。

平成20年度調査では「男性が優遇されている」・「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は全体の66.8%であった。「平等」と回答したのは全体の20.1%、男性で26.6%、女性で14.7%であった。

問8 男女の地位の平等について(個別 B:職場では)



< H20アンケート >

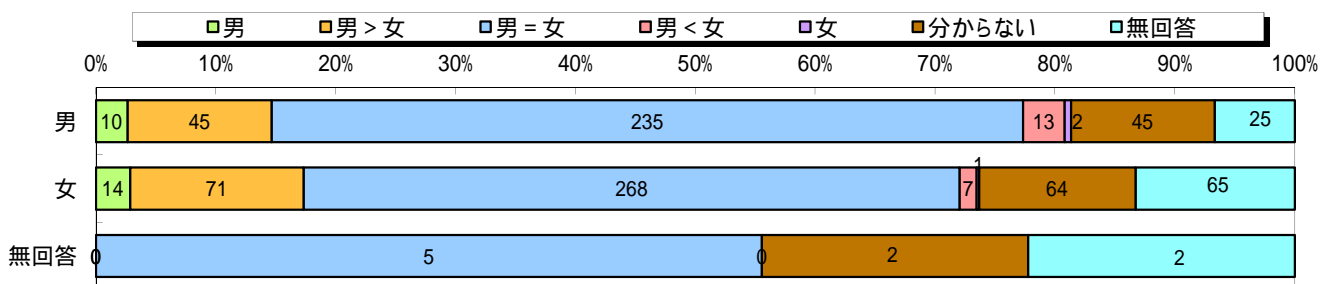


【分析】

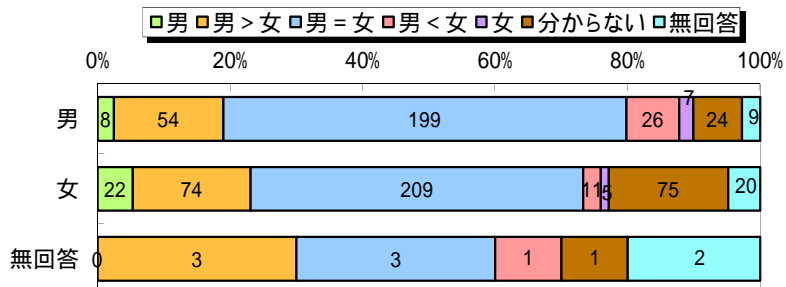
職場において「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、全体の59.8%、「平等」は全体の22.4%であった。また、「平等」と回答したのは男性で23.7%、女性で21.2%であった。平成20年度調査時に比べ、女性では「平等」と回答した割合が高くなっているが、男性では0.5ポイント減となっている。

平成20年度調査では「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、全体の65.5%、「平等」は全体の19.8%、男性で24.2%、女性で16.3%であった。

問8 男女の地位の平等について(個別 C:学校教育の場では)



< H20アンケート >

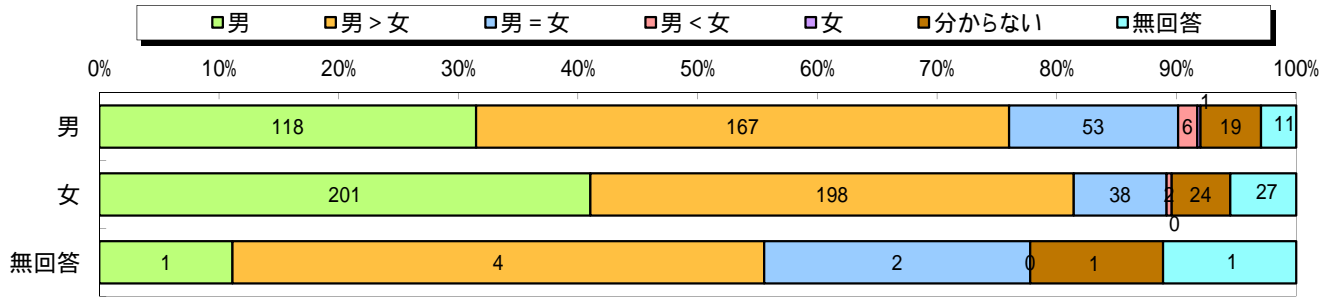


【分析】

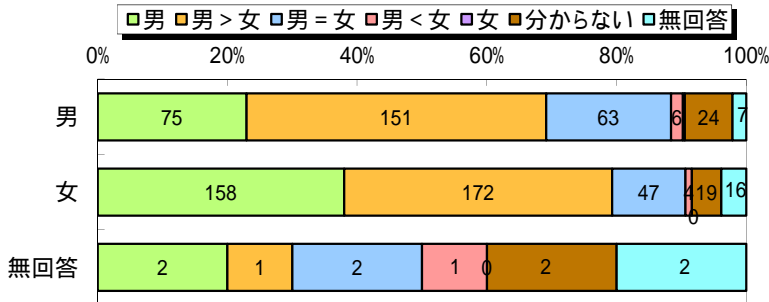
学校教育の場では男女が「平等」と回答した割合が最も高く、全体の58.1%、男性で62.7%、女性で54.7%であった。平成20年度調査時に比べ、教育現場では男女が平等であると感ずる割合が、男女ともに更に高くなっている。

平成20年度調査では「平等」と回答した割合が最も高く、全体の54.6%、男性で60.9%、女性で50.2%であった。

問8 男女の地位の平等について(個別 D:政治の場では)



< H20アンケート >

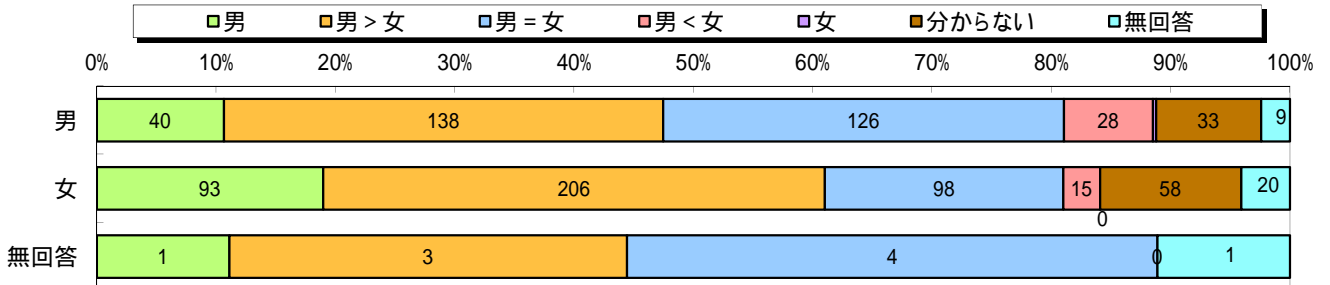


【分析】

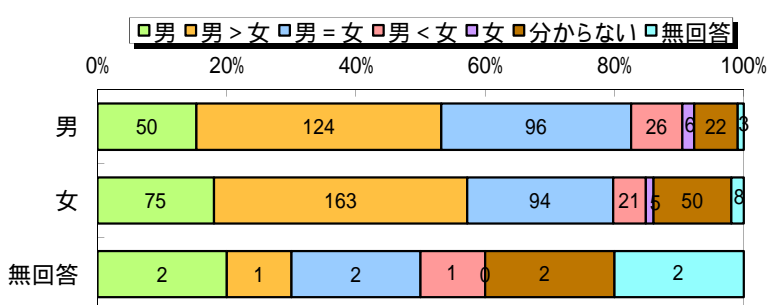
政治の場では「男性が優遇されている」、「どちらかと言えば男性が優遇されている」と回答した割合は全体の78.8%であり、男女別では、男性の76.0%、女性の81.4%となっている。平成20年度調査時に比べ、男女とも、男性が優遇されていると感じる割合が高くなっている。

平成20年度調査では「男性が優遇されている」、「どちらかと言えば男性が優遇されている」と回答した割合は全体の74.2%、男性の69.1%、女性の79.3%であった。

問8 男女の地位の平等について(個別 E:地域活動では)



< H20アンケート >

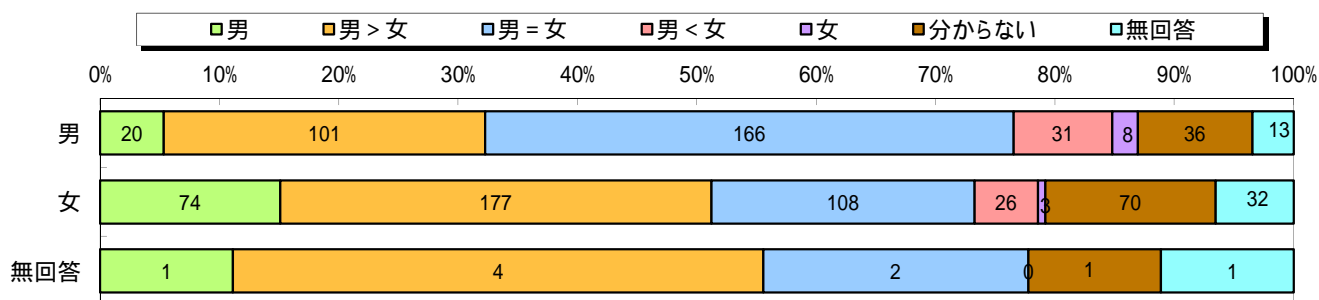


【分析】

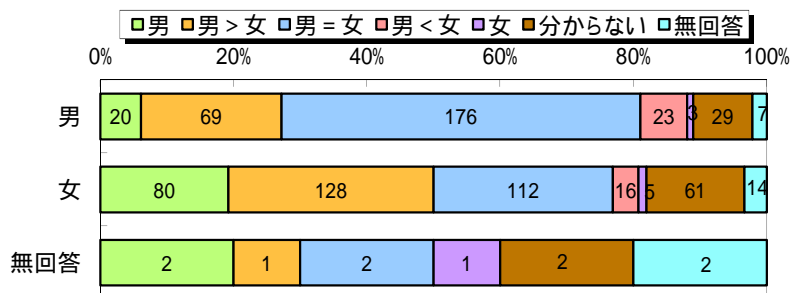
地域活動では「男性が優遇されている」、「どちらかと言えば男性が優遇されている」と回答した割合は全体の55.0%であり、男女別で見ると、男性で47.5%、女性で61.0%であった。また、「平等」と回答したのは全体の26.1%、男女別では、男性で33.6%、女性で20.0%であった。平成20年度調査結果と比較すると、男性は男女平等が進んでいると感じているのに対し、女性は男性が優遇されていると感じていることがみとれる。

平成20年度調査では「男性が優遇されている」、「どちらかと言えば男性が優遇されている」と回答した割合は全体の55.1%、男性で53.2%、女性で57.2%であり、「平等」と回答したのは全体25.5%、男性で29.6%、女性で22.6%であった。

問8 男女の地位の平等について(個別 F:法律や制度では)



< H20 アンケート >

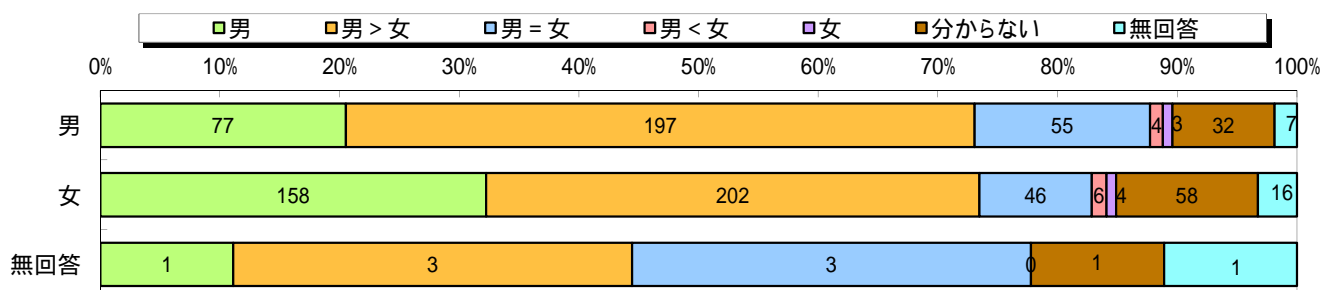


【分析】

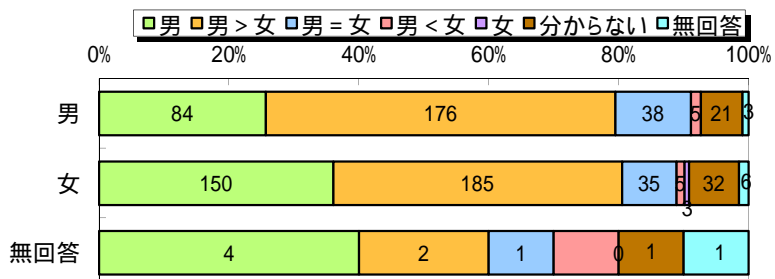
法律や制度では、男女が「平等」と回答した割合は31.6%であり、男女別で見ると、男性で44.3%、女性で22.0%であった。また、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、全体の43.1%、男女別では、男性で32.3%、女性で51.2%であった。
平成20年度調査結果と比較すると、男女ともに「平等」と回答した割合が減少しており、男性が優遇されていると回答する割合が高くなっている。

平成20年度調査では、男女が「平等」と回答した割合は38.5%、男性で53.8%、女性で26.9%であった。また、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、全体の39.8%、男性で27.2%、女性で50.1%であった。(この時点では、男性が平等であると感じているのに対し、女性は男性の方が優遇されていると感じていた)

問8 男女の地位の平等について(個別 G:しきたりや慣習では)



< H20 アンケート >

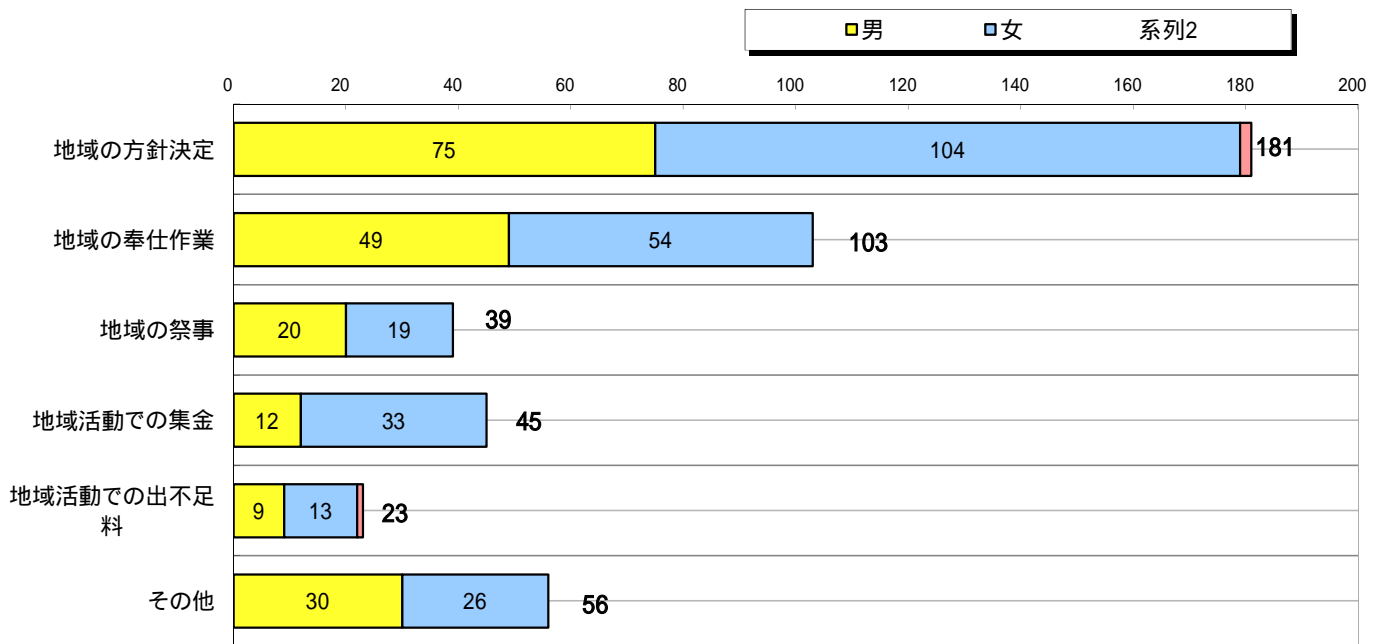


【分析】

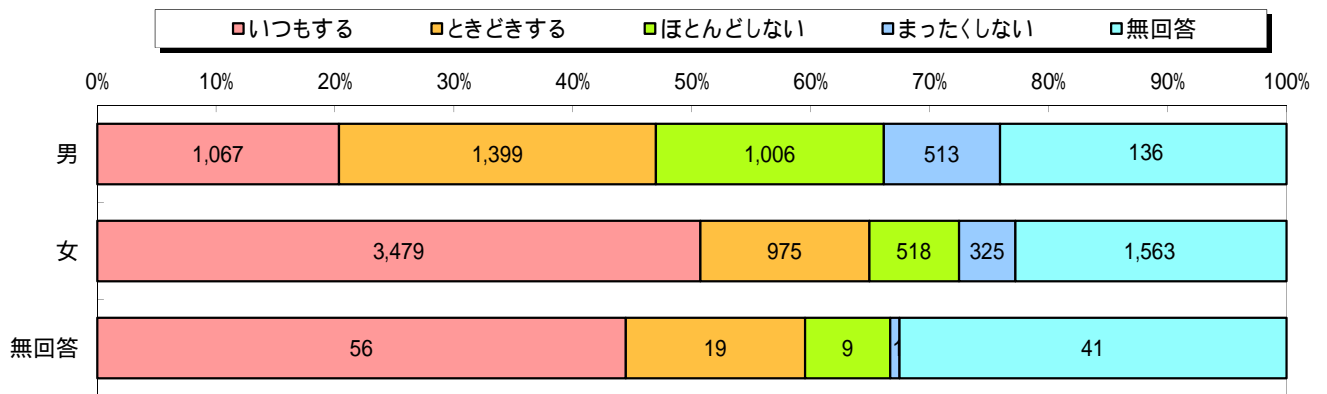
しきたりや慣習では「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、全体の73.0%であり、男女別で見ると、男性で73.1%、女性で73.5%であった。また、「平等」と回答したのは全体の11.9%であり、男女別では男性で14.7%、女性で9.4%であった。
平成20年度調査時に比べ、男女ともわずかに「平等」と回答した割合が増えている。

平成20年度調査では「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合は、全体の79.8%、男性で79.5%、女性で80.5%であった。また、「平等」は全体の9.8%、男性で11.6%、女性で8.4%であった。

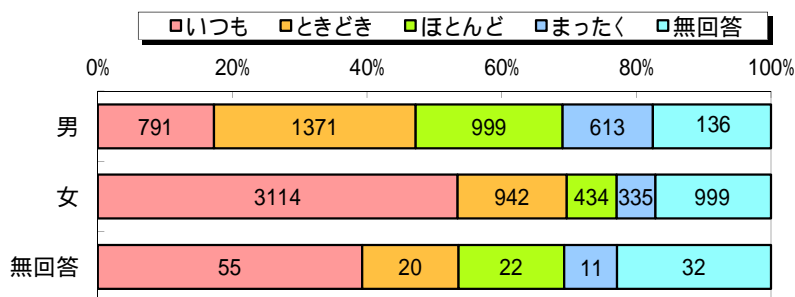
問9 男性と女性を差別するようなしきたりや慣習について



問10 家庭内の仕事について(全体)



< H20アンケート >



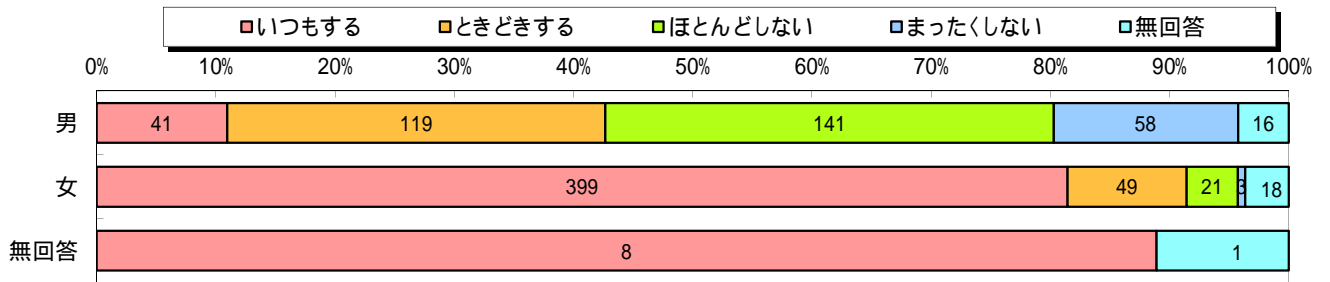
【分析】

家庭内の仕事を総合的にみると、「いつもする」、「ときどきする」と回答した割合は男性の47.0%、女性の64.9%であった。特に「いつもする」では、男性で20.3%、女性で50.7%であり、男女差が30.4ポイントと大きく開いている。

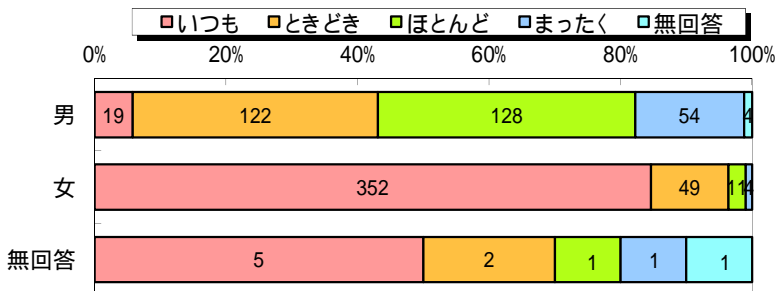
しかしながら、平成20年度調査と比較すると、常時家事参加している男性が増えている様子が見受けられる。

平成20年度調査では「いつもする」、「ときどきする」と回答した割合は男性で47.2%、女性で69.6%。男女差22.4%であった。特に「いつもする」と回答したのは、男性で17.3%、女性で53.5%で、男女で36.2ポイントの差があった。

問10 家庭内の仕事について(個別 A:食事の用意)



< H20アンケート >

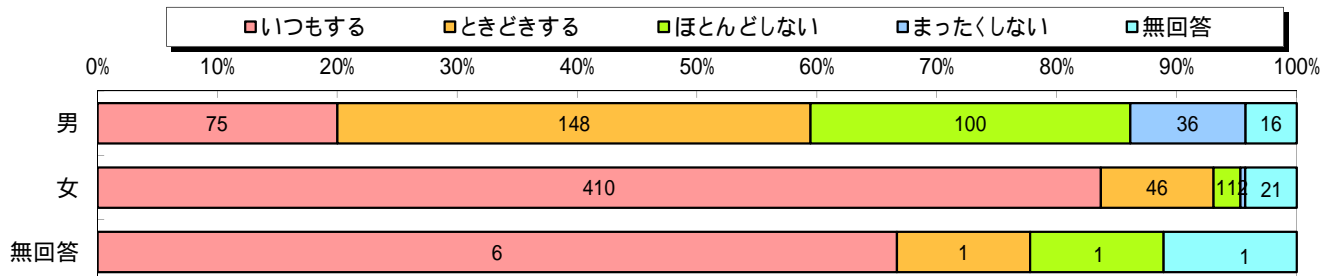


【分析】

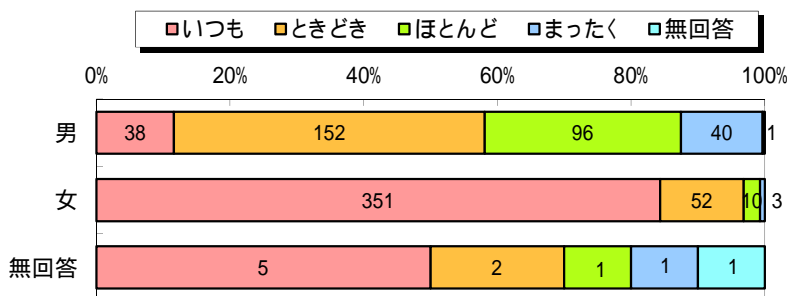
食事の用意を「いつもする」、「時々する」と回答した割合は、男性の42.7%、女性の91.4%であった。特に「いつもする」と回答したのは男性で10.9%、女性で81.4%であり、男女差が70.5ポイントと大きな開きがあった。

食事の用意は主に女性が担っている様子が伺えるが、平成20年度調査と比較すると、いつも食事の用意をすると回答した男性はわずかに増えている。

問10 家庭内の仕事について(個別 B:食事の後片付け)



< H20アンケート >



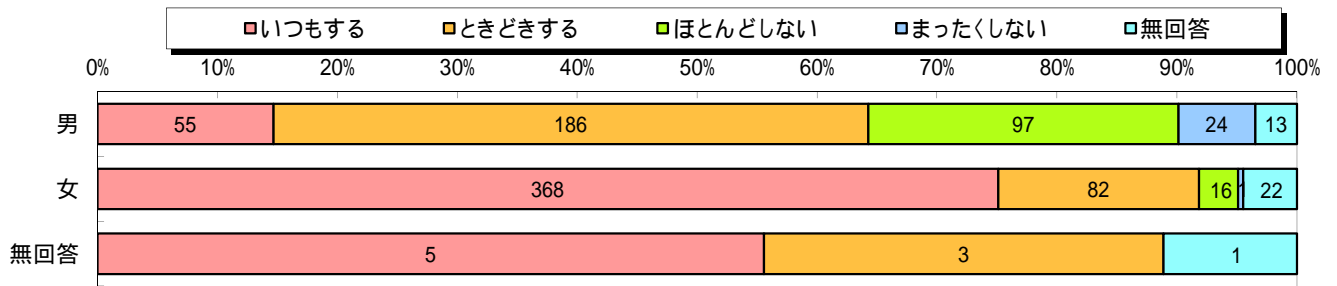
【分析】

食事の後片付けを「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは、男性の59.5%、女性の93.1%であった。特に「いつもする」と回答したのは、男性で20.0%、女性で83.7%であり、男女差が63.7ポイントとなっている。

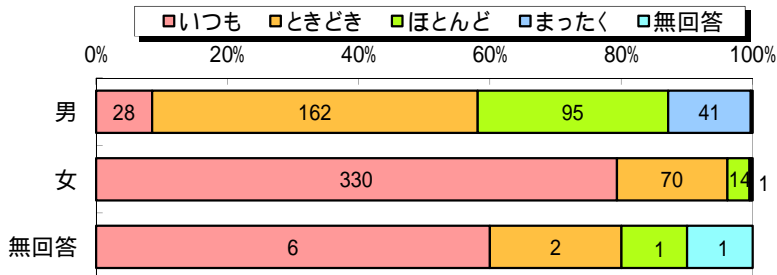
平成20年度調査と比較すると、「いつもする」と回答した男性が8.4ポイント増加している。

平成20年度調査では「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは男性の58.1%、女性の97.1%であった。特に「いつもする」と回答したのは男性で11.6%、女性で84.3%であり、男女で72.7ポイントの差が見られた。

問10 家庭内の仕事について(個別 C:掃除)



< H20アンケート >

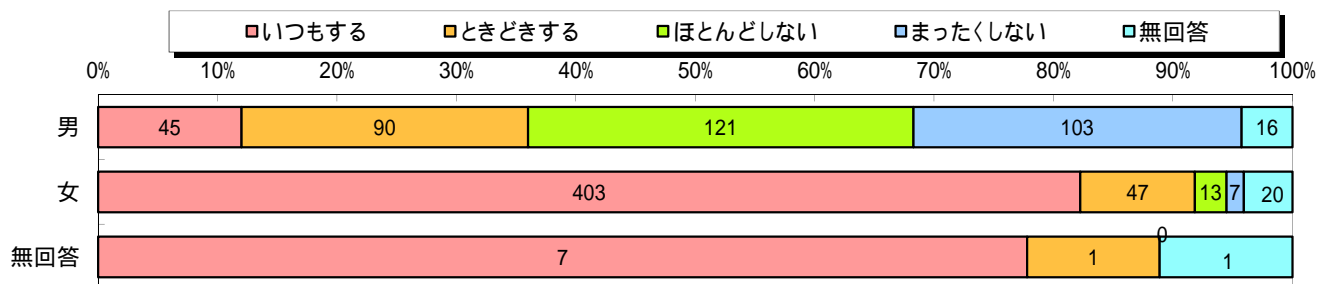


【分析】

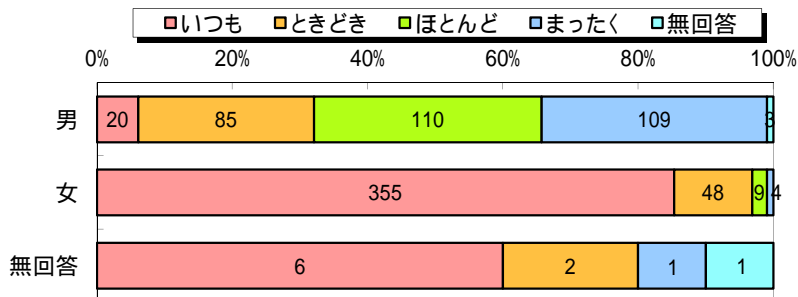
掃除を「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは男性の64.3%、女性の91.8%であった。平成20年度調査結果に比べ男性の参加が増えていることが見て取れる。

平成20年度調査では「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは、男性の58.1%、女性の96.2%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 D:洗濯)



< H20アンケート >

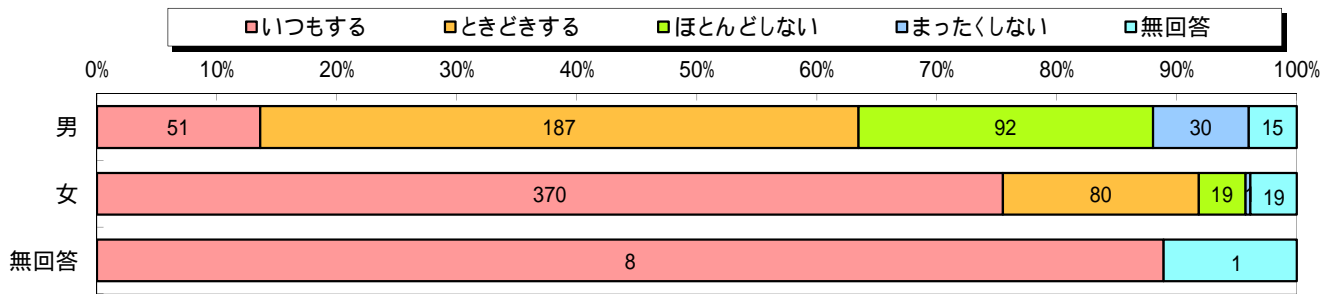


【分析】

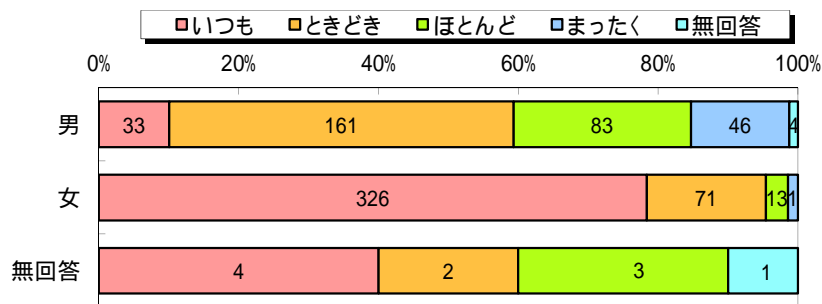
掃除を「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは男性の36.0%、女性の91.8%であった。平成20年度調査と比べると、男性の参加が増えていることが見て取れる。

平成20年度調査では「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは、男性の32.1%、女性の96.9%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 E:日常の買い物)

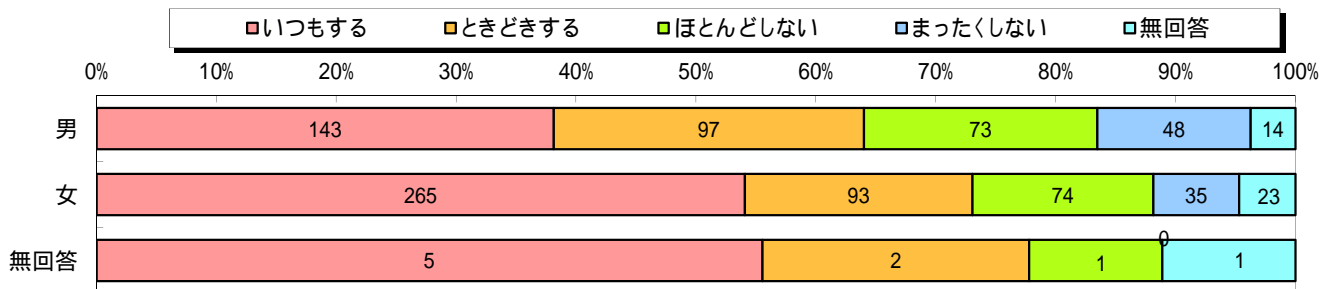


< H20アンケート >

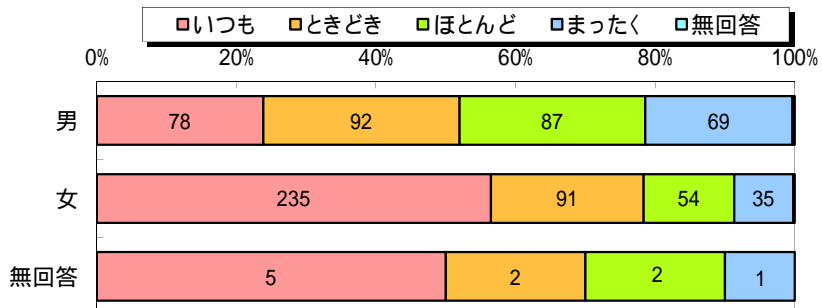


【分析】
 日常の買い物を「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは、男性の63.5%、女性の91.8%であった。
 平成20年度調査と比較すると、男性の参加が増えていることが見て取れる。
 平成20年度調査では「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは、男性の59.3%、女性の95.4%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 F:ゴミ出し)

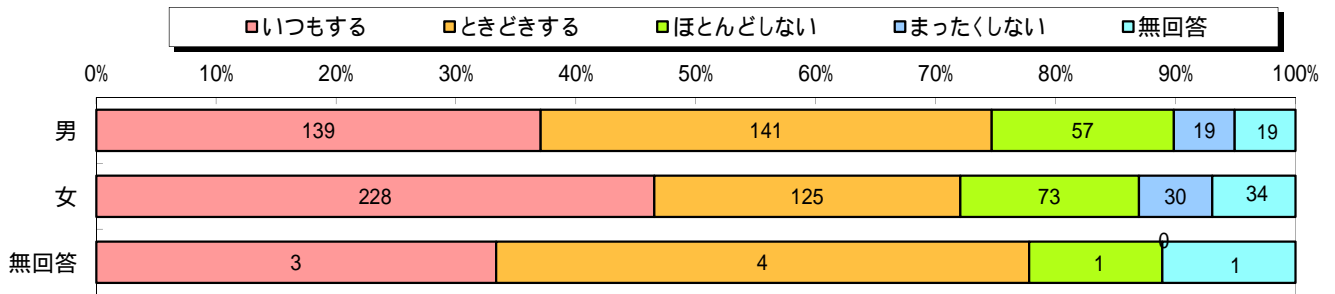


< H20アンケート >

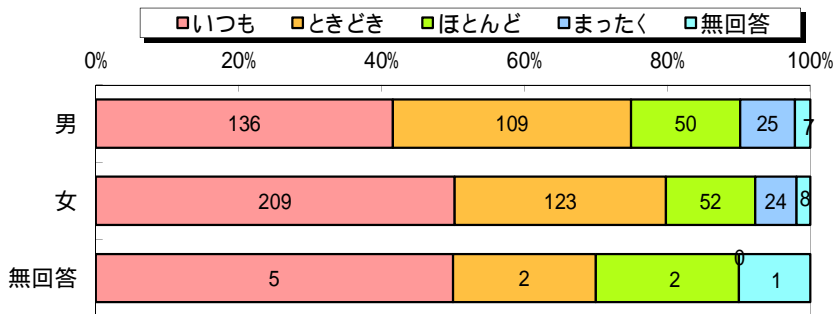


【分析】
 ゴミ出し「いつもする」・「ときどきする」と回答した割合は男性の64.0%、女性の73.1%。特に「いつもする」男性は38.1%、女性は54.1%であった。
 平成20年度調査時よりもゴミ出しをする男性が増えており、特にいつもする男性の割合が14.2ポイント増えている。
 平成20年度調査では「いつもする」・「ときどきする」と回答した割合は、男性の52.0%、女性の78.6%であり、特に「いつもする」と回答したのは男性で23.9%、女性で56.5%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 G:家の管理)



< H20アンケート >

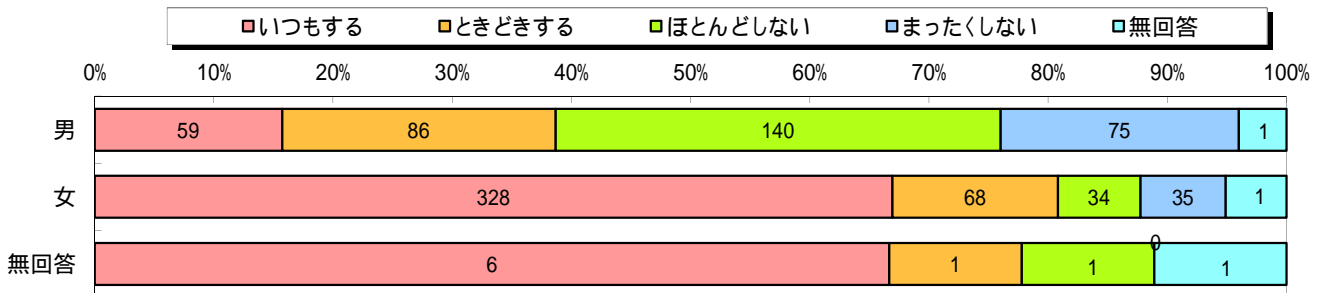


【分析】

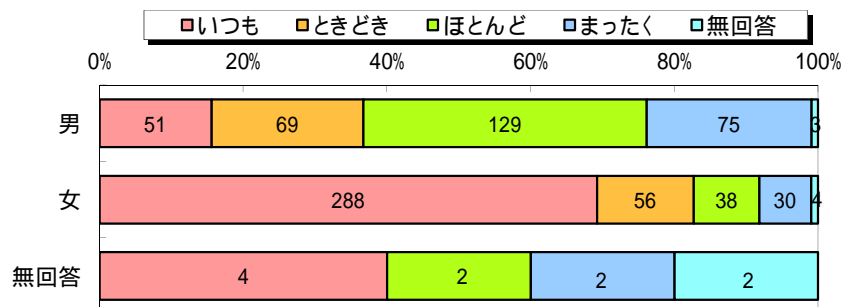
家の管理を「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは、男性の74.7%、女性の72.0%であった。
平成20年度調査結果と比較すると、男性は0.2ポイント減、女性は7.8ポイント減となっており、男女の差は2.7ポイントに縮小している。

平成20年度調査では、「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは男性の74.9%、女性の79.8%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 H:家計のやりくり)



< H20アンケート >

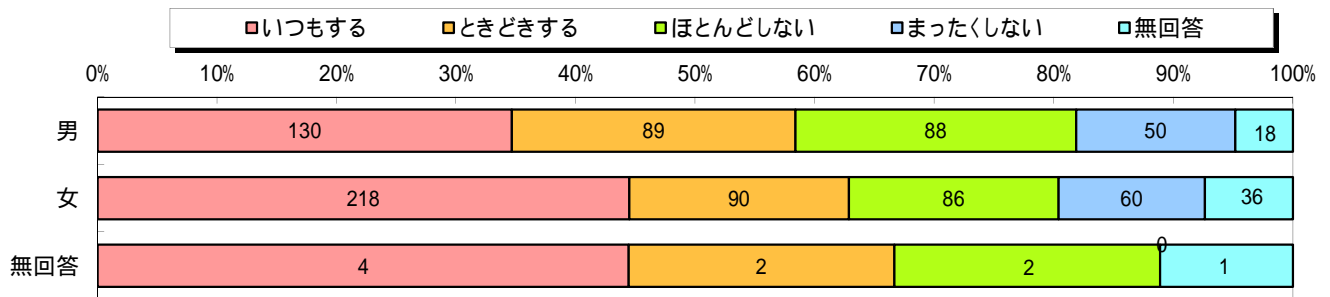


【分析】

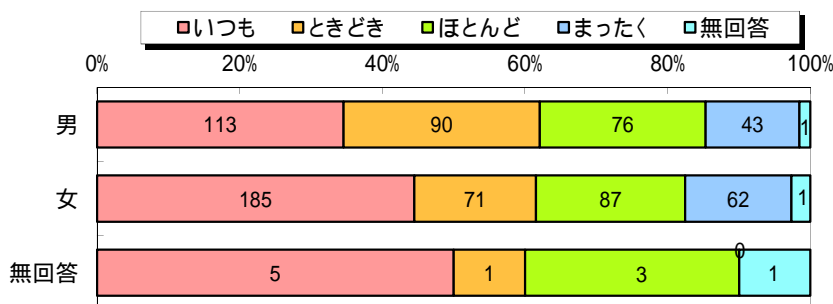
家計のやりくりを「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは、男性の38.6%、女性の80.8%であった。
平成20年度調査時と比較すると、男性の参加が増えている様子が見受けられる。

平成20年度調査では「いつもする」、「ときどきする」と回答したのは男性の36.7%、女性の82.7%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 I:財産管理)



< H20アンケート >

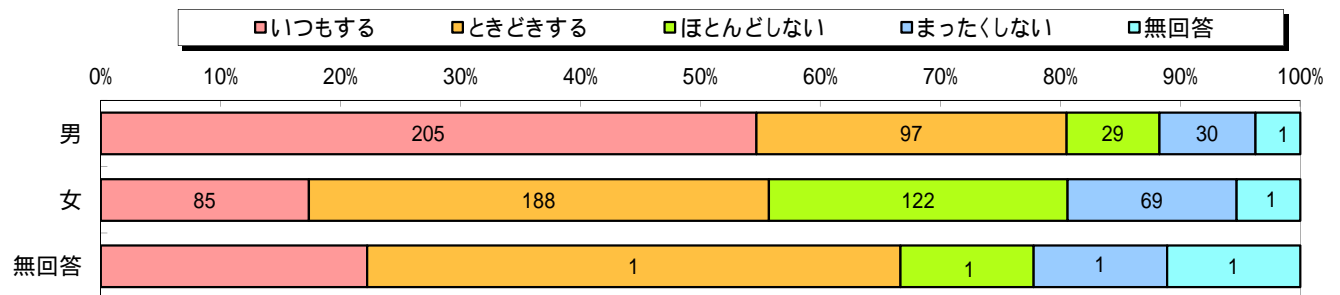


【分析】

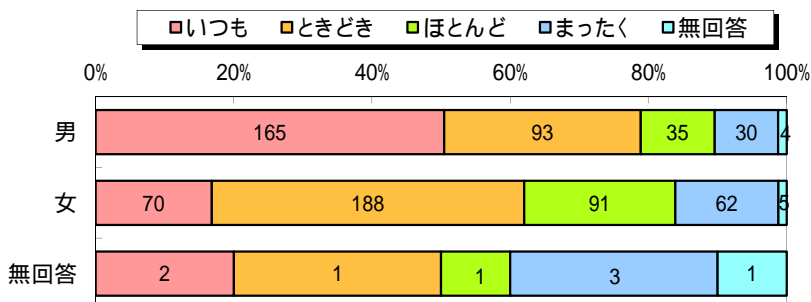
財産管理を「いつもする」「ときどきする」と回答したのは男性の58.4%、女性の62.9%であった。
 平成20年度調査時では男性の方が割合が高かったのに対し、本調査では、女性が男性の割合を4.5ポイント上回っており、財産管理を女性が担う割合が増えている。

平成20年度調査では「いつもする」「ときどきする」と回答したのは男性の62.1%、女性の61.5%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 J:自治会活動への参加)



< H20アンケート >

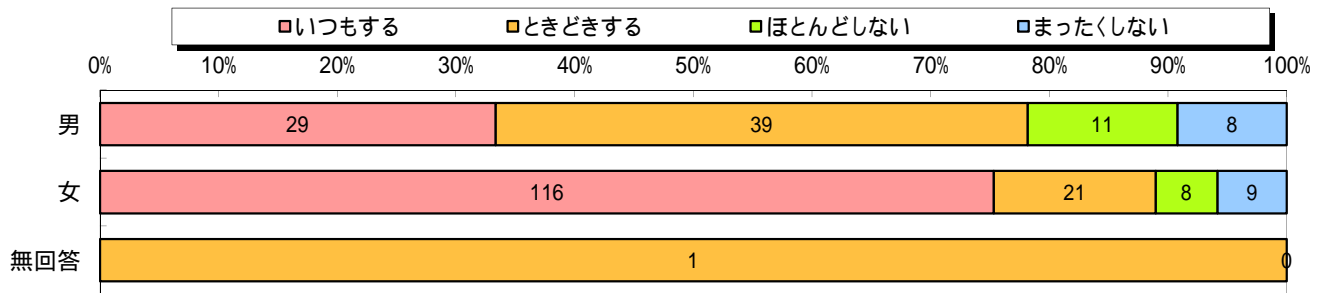


【分析】

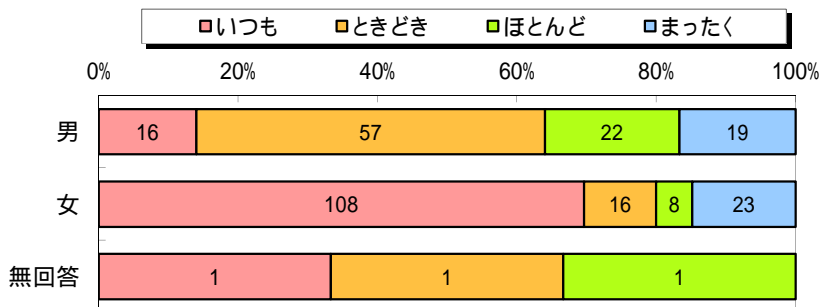
自治会活動への参加を「いつもする」「ときどきする」と回答したのは、男性の80.6%、女性の55.7%であった。
 平成20年度調査時でも、男性に比べ、女性が自治会活動に参加している割合は低かったが、本調査では、自治会活動に参加する女性の割合が更に減少し、男女の差が24.9ポイントにまで広がっている。

平成20年度調査では「いつもする」「ときどきする」と回答したのは、男性の78.9%、女性の62.0%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 K:育児(乳幼児の世話))



< H20アンケート >

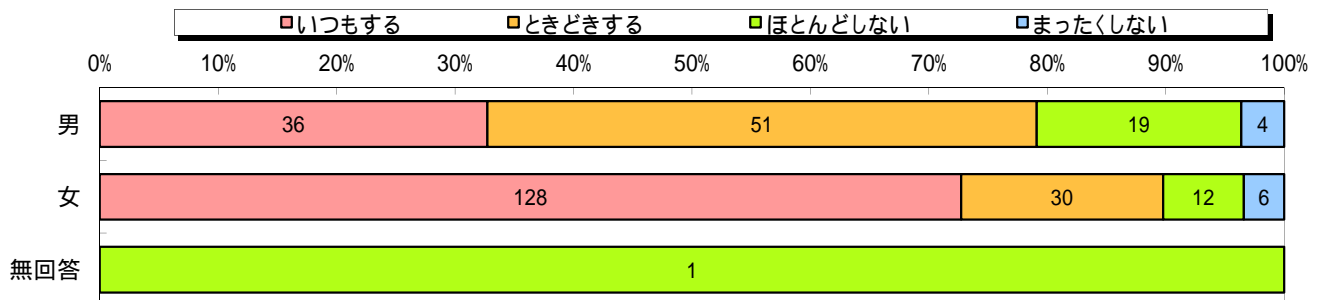


【分析】
 育児(乳幼児の世話)を「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは、男性の78.1%、女性の88.9%であった。特に「いつもする」と回答したのは男性で33.3%、女性で75.3%であった。平成20年度調査と比較すると、育児を「いつもする」と回答した男性が倍に増えている。

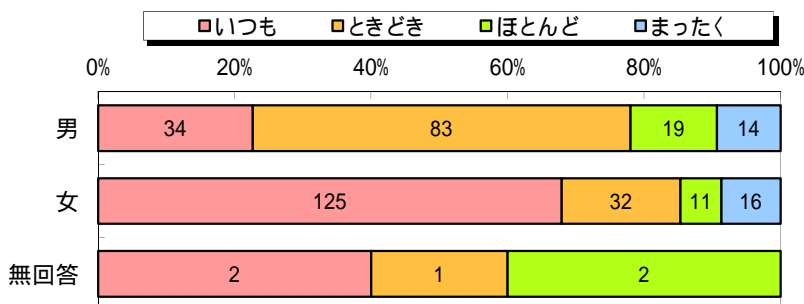
平成20年度調査では「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは男性で64.0%、女性で80.0%であり、特に「いつもする」と回答したのは男性で14.0%、女性で69.7%であった。

K～Nは該当者だけに回答を求める項目であるため、無回答(非該当者)を除いた数を分母として割合(%)を算出しています。(これらの表における「無回答」は「性別不明」を表しています。)

問10 家庭内の仕事について(個別 L:子供のしつけや教育)



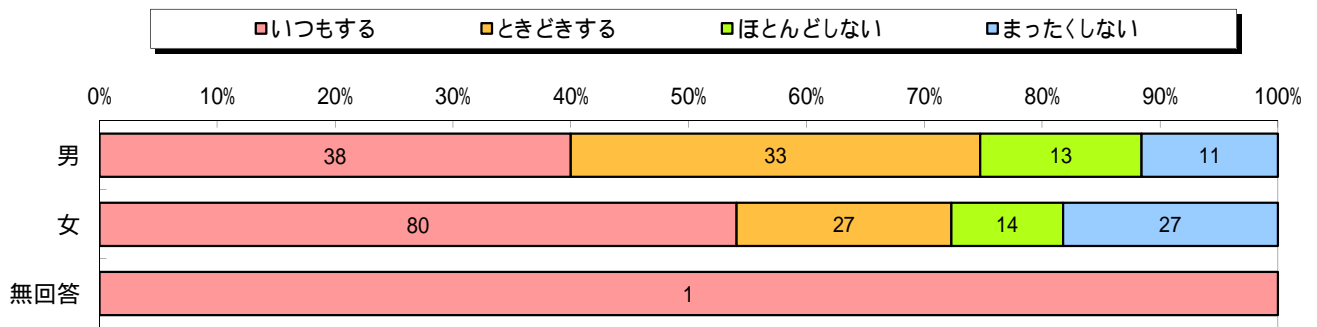
< H20アンケート >



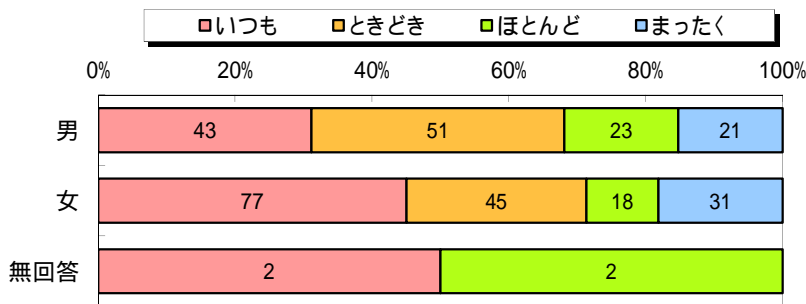
【分析】
 子どものしつけや教育を「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは、男性の79.1%、女性の89.7%であった。特に「いつもする」と回答したのは、男性で32.7%、女性で72.7%であった。平成20年度調査に比べ「いつもする」男性が10ポイント増加している。

平成20年度調査では「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは男性の78.0%、女性の85.3%であった。特に「いつもする」と回答したのは、男性で22.7%、女性で67.9%であった。

問10 家庭内の仕事について(個別 M:PTA活動、子ども会)



< H20アンケート >



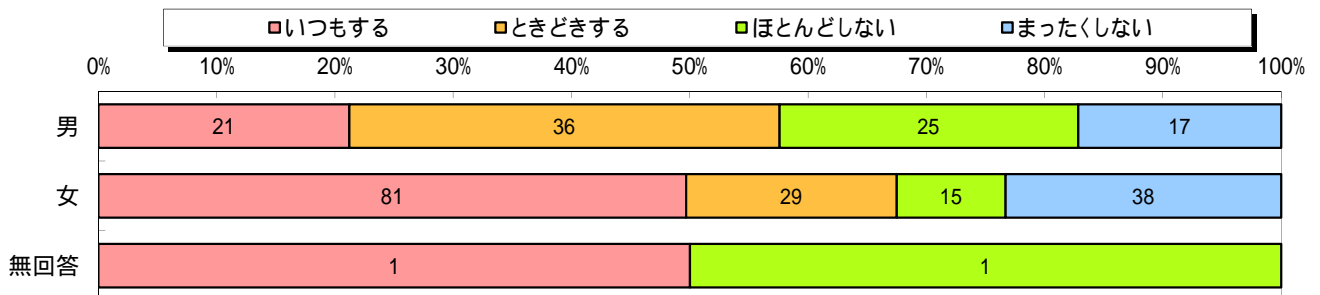
【分析】

PTA活動、子ども会活動を「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは、男性の74.7%、女性の67.5%であった。

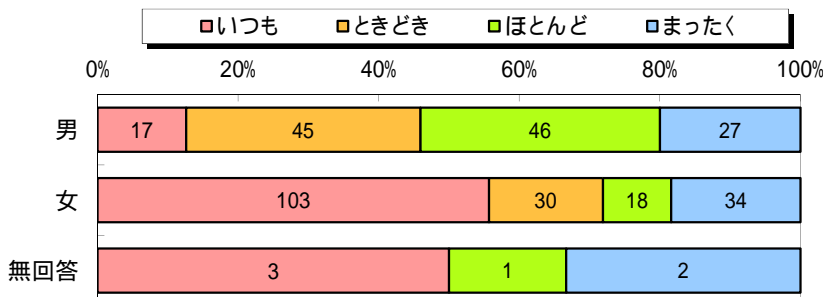
平成20年度調査時よりも男性の参加が増加し、女性の参加が減少した結果、活動に参加している男性の割合が女性を7.2ポイント上回った。

平成20年度調査では「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは男性で68.2%、女性で71.3%であり、女性の方が惰性を3.1ポイント上回っていた。

問10 家庭内の仕事について(個別 N:看護や介護)



< H20アンケート >



【分析】

看護や介護を「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは、男性の57.6%、女性の67.5%であった。

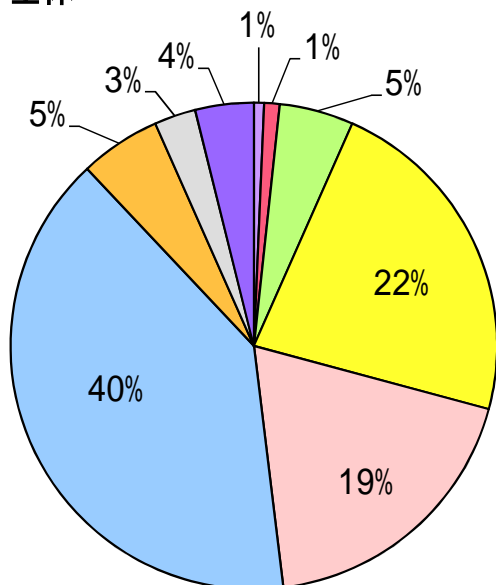
平成20年度調査結果に比べ、看護や介護をすると答えた男性は11.7ポイント増加しており、女性では4.4ポイント減少している。

H20では「いつもする」・「ときどきする」と回答したのは男性で45.9%、女性で71.9%。

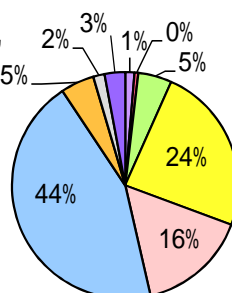
問11 女性が職業を持つことについて



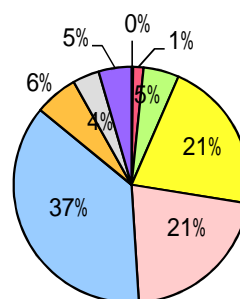
全体



男

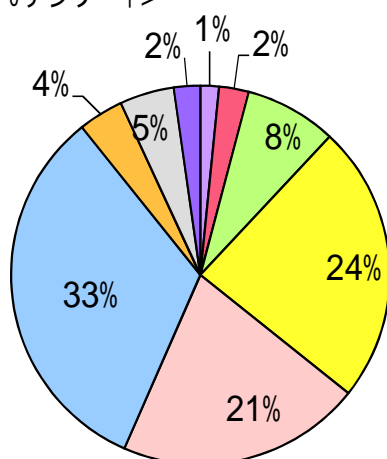


女



< H20アンケート >

全体

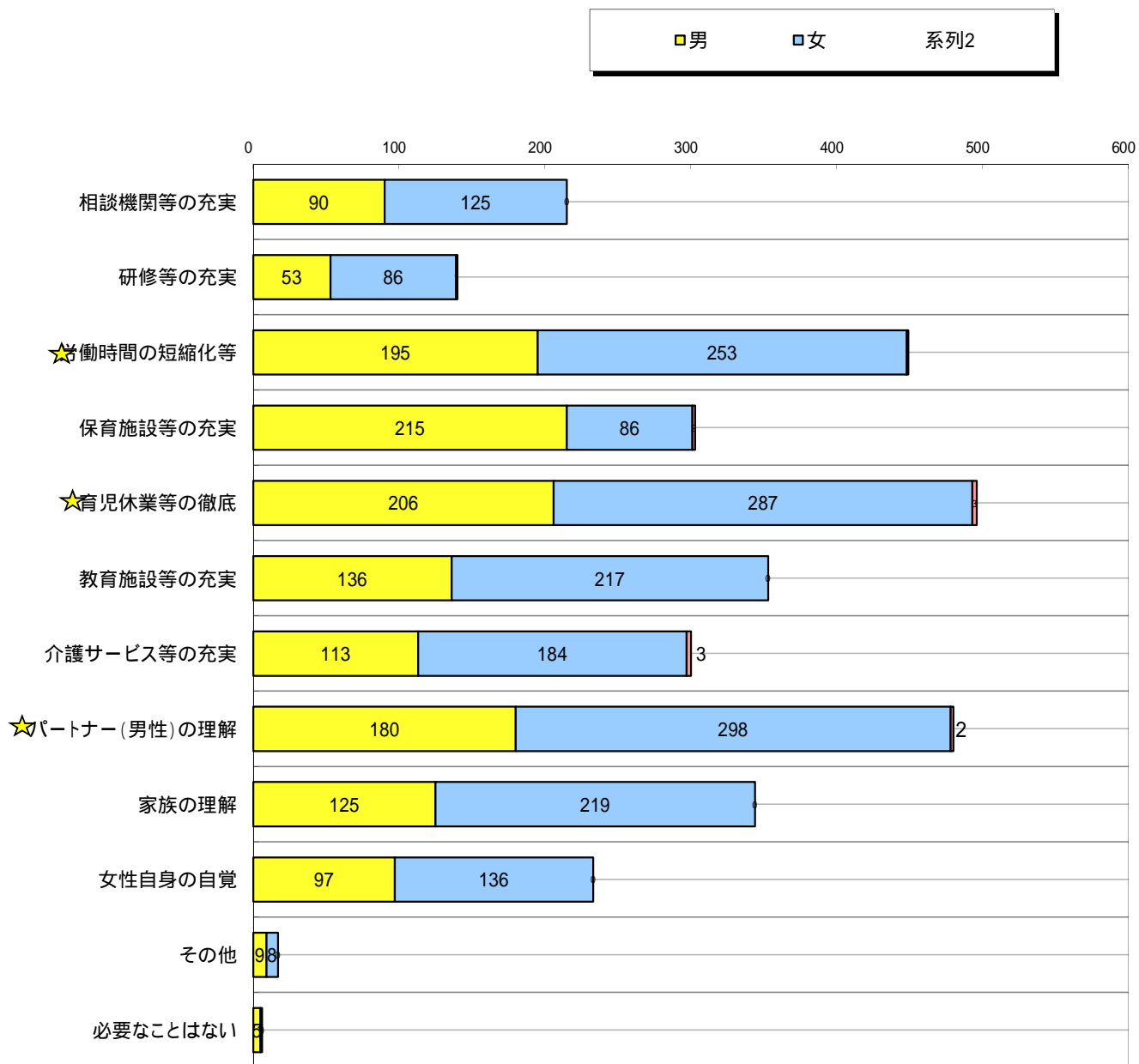


【分析】

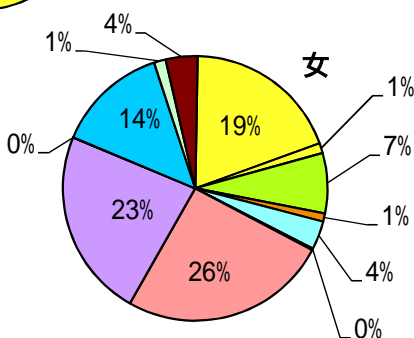
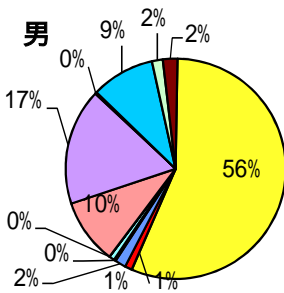
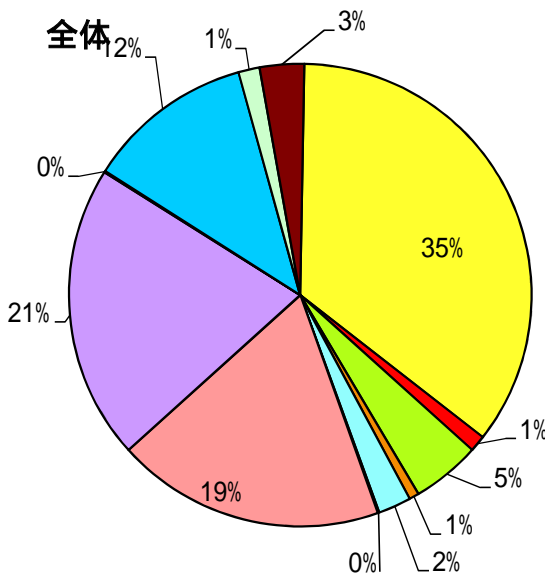
結婚・出産後も再就職・転職・現在の職業を継続する等、何らかの形で女性が職業を持つことが望ましいと考える人の割合は、全体の81.0%であった。男女別にみると、男性で84.0%、女性で79.3%であった。特に「結婚・出産に関わらず職業を継続するようがよい」を選択したのは全体の39.9%、男性の44.3%、女性の36.9%となっている。本調査では、結婚出産後も女性が職業を持つことを肯定する回答の割合は、男性が女性を上回っており、平成20年度調査から本調査（平成26年度実施）までの6年間で、男性がより女性の就業に対して肯定的になっている様子が見受けられる。女性は男性に比べ経年変化は少なく、男女で女性が職業を持つことに対する考えに大きな違いはなくなっている。

平成20年度調査では結婚・出産後も（再就職・転職・継続等）何らかの形で女性が職業を持つことが望ましいと考える人の割合は全体の78.0%、男性の74.9%、女性の79.8%であった。特に「結婚・出産に関わらず職業を継続するようがよい」を選択したのは全体の33.0%、男性で32.4%、女性で33.4%であった。

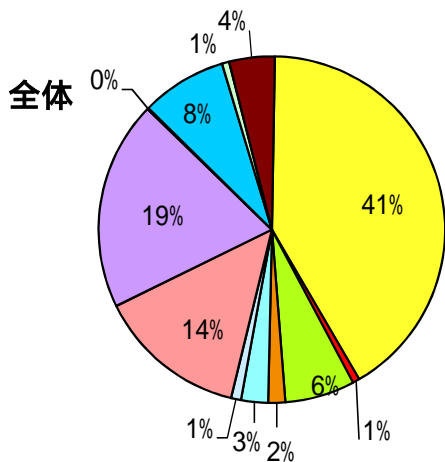
問12 女性が結婚・出産後も働き続けるにはどんなことが必要か



問13 どなたに介護を頼みたいか



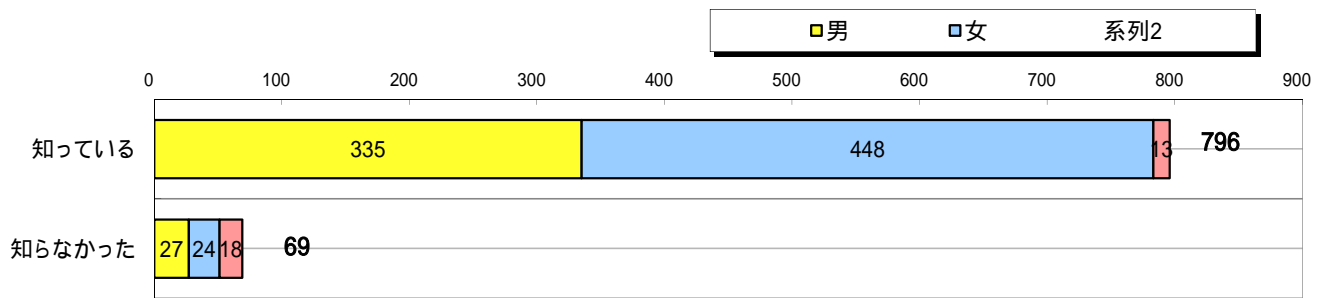
< H20アンケート >



【分析】
 介護を頼みたい相手として最も回答が多かったのは、「配偶者」で、全体の35.2%であった。男女別にみると、「配偶者」を選択したのは男性の56.3%、女性の19.2%であり、男女で37.1ポイントの差があった。平成20年度調査結果と比較すると、男女とも配偶者からの介護を希望する割合は減少しているが、女性の減少の割合の方が大きかったことから、男女で配偶者からの介護を希望する割合の差が開く結果となった。
 女性で最も希望が多かったのは、「ホームヘルパーなどの訪問介護サービスの利用」で、女性の25.5%が選択しており、平成20年度調査時よりも7.5ポイント伸びている。(同項目で男性では0.4ポイント増。)一方、男性で増加したのは「特別養護ホームなどの施設に入る」で平成20年度から3ポイント上昇している。(同項目で女性では0.5ポイント減。)

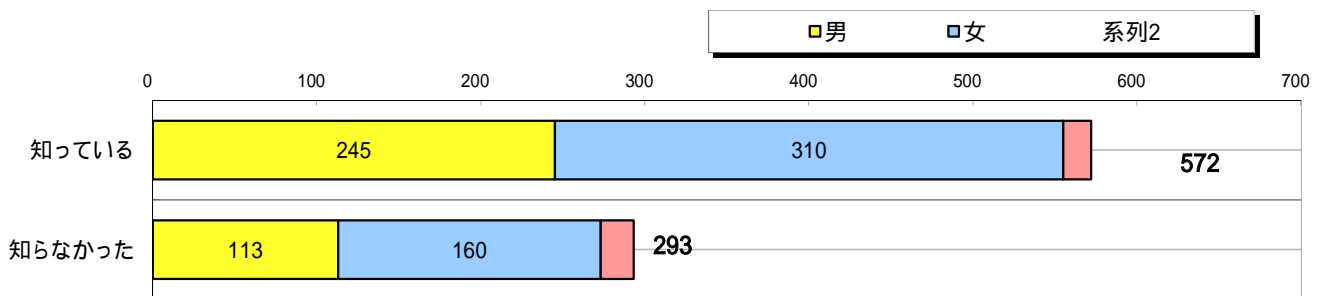
平成20年度調査では、「配偶者」に介護を頼みたいとした回答が最も多く、全体の41.3%、男性の61.5%、女性の26.0%であり、男女に35.5ポイントの差が見られた。女性で最も多かったのは「施設にはいる」で女性の23.6%が希望していた。

問14 - 1 育児休業制度について



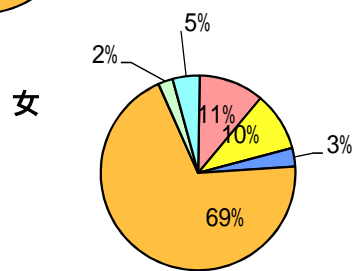
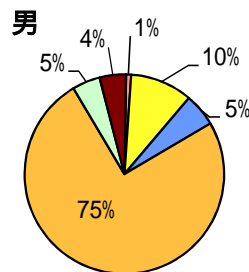
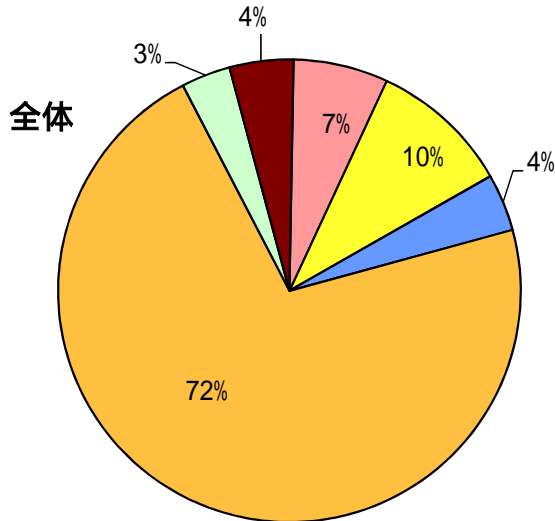
【分析】
 育児休業制度を「知っている」と答えたのは全体の92.0%、男性の92.5%、女性の94.9%であり、男女とも9割以上の人に育児休業制度が認知されていた。

問14 - 2 介護休業制度について

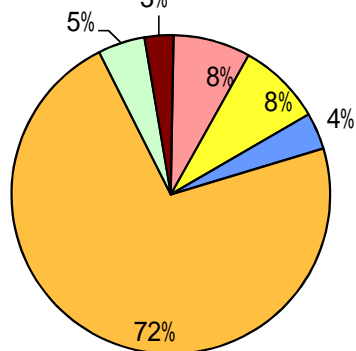


【分析】
 介護休業制度を「知っている」と答えたのは全体の66.1%、男性の68.4%、女性の66.0%であり、「知らない」と答えたのは全体の33.9%、男性の31.6%、女性の34.0%であった。男女とも未だ約3割の人に周知がされていないことが見て取れる。

問15 セクハラについて

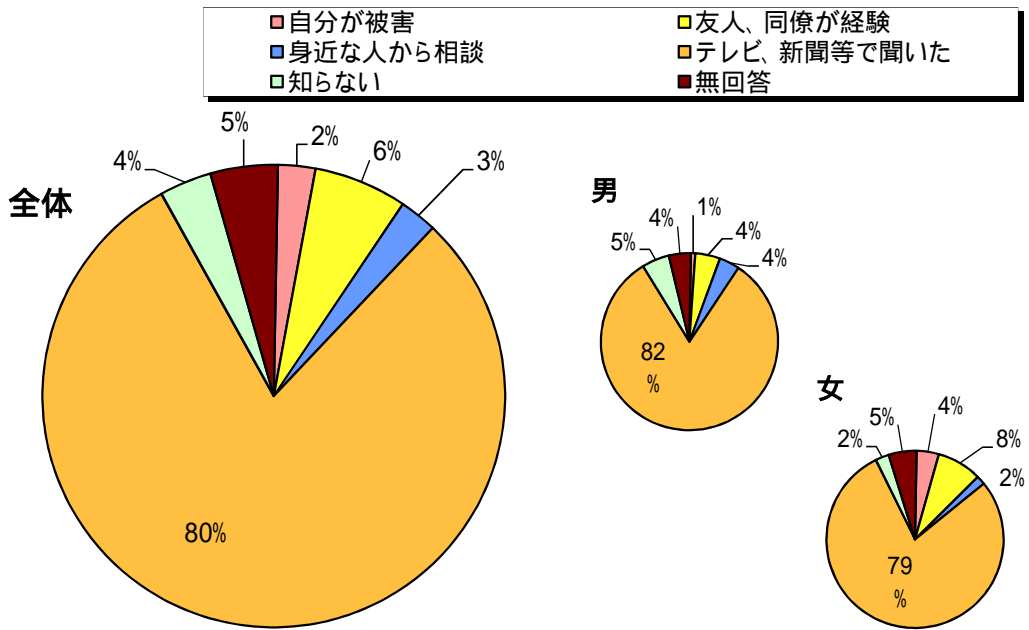


< H20アンケート >



【分析】
 セクハラについて「聞いたことがないし、知らない」と答えたのは全体の3.4%で、平成20年度調査時の4.8%から1.4ポイント減少していた。
 一方、「自分が被害にあったことがある」「友人や同僚が経験したことがある」「身近な人から相談されたことがある」と回答したのは、全体の27.6%で、平成20年度調査時の20.0%よりも7.6ポイント増加していた。
 また、「自分が被害にあったことがある」と回答したのは女性で10.8%、男性で0.8%となっており、女性の方がセクハラ被害にあいやすくなっている。

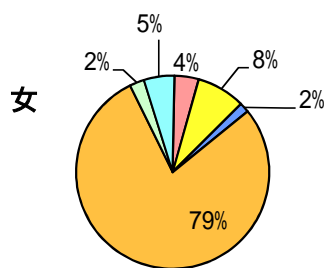
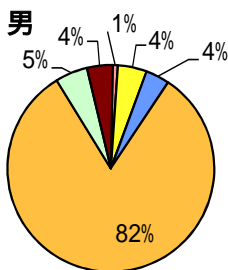
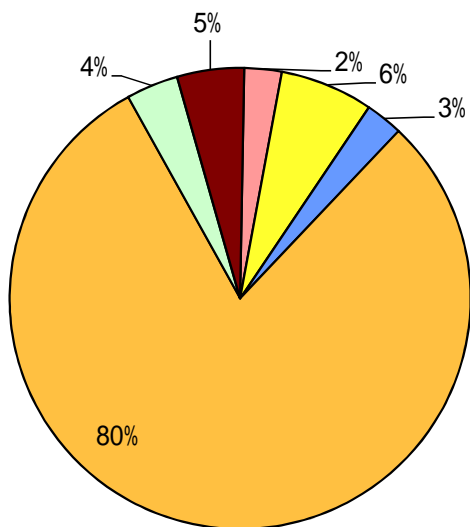
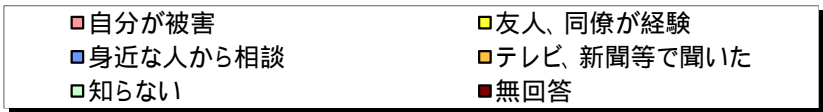
問16 ストーカー行為について



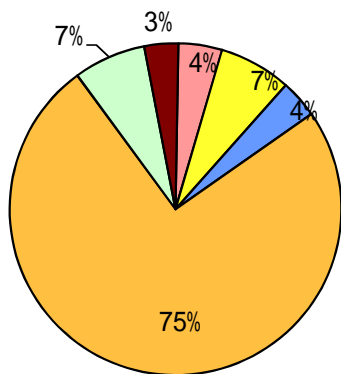
【分析】
 ストーカー行為について「聞いたことがないし、知らない」と回答したのは全体の3.7%であった。一方「自分が被害にあったことがある」「友人や同僚が経験したことがある」「身近な人から相談されたことがある」と回答したのは全体の11.7%であった。また、「自分が被害にあったことがある」と回答したのは、女性で4.1%、男性で0.8%となっており、女性の方がストーカー被害にあいやすくなっている。

問17 ドメスティック・バイオレンスについて

全体

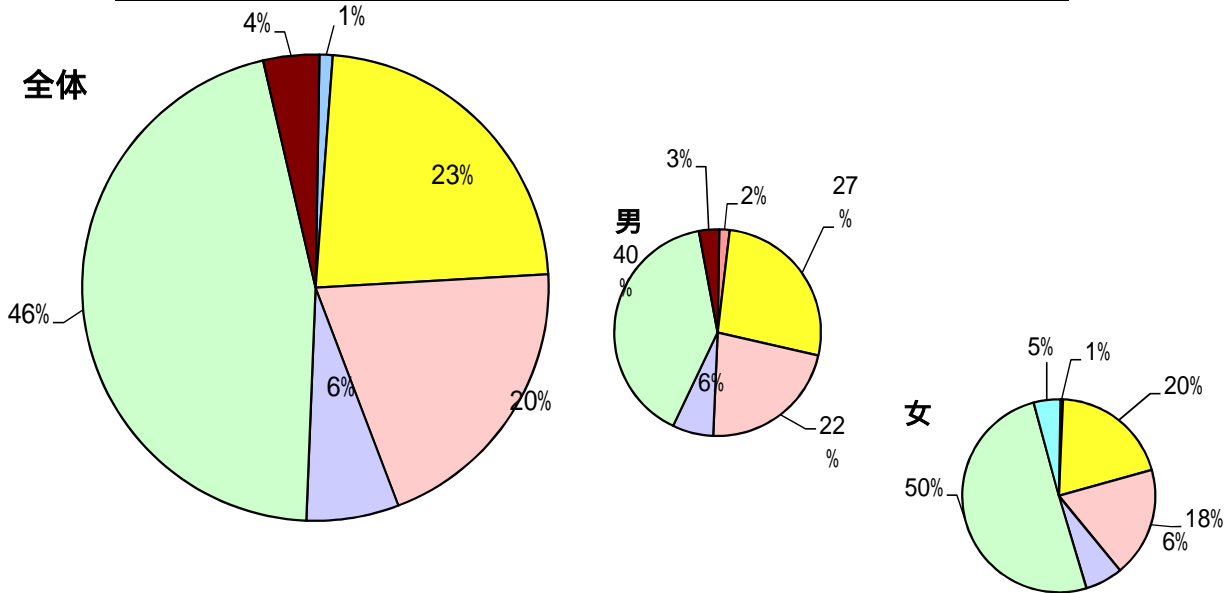
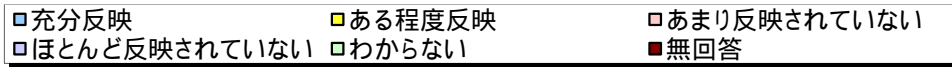


< H20アンケート >

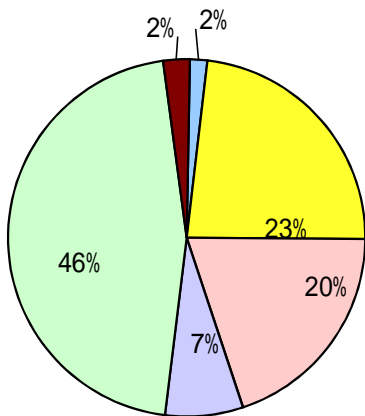


【分析】
DVについて「聞いたことがないし、知らない」と回答したのは全体の3.7%で、平成20年度調査時の7.0%から3.3ポイント減少していることから、より広く認識されるようになってきていることがわかった。
本調査で、「自分が被害にあったことがある」と回答したのは全体の2.6%、女性の4.1%、男性の0.8%であり、女性の方がDV被害にあいやすくなっている。

問18 行政への女性意見の反映について



< H20アンケート >



【分析】

「わからない」と回答した割合が最も高く、45.8%となっており、平成20年度調査結果とほぼ同値であった。男女別では、男性の40.0%、女性の50.1%が女性の意見がどれくらい反映されているか分からないと回答している。

また、女性の意見が市政に「あまり反映されていない」「ほとんど反映されていない」と回答した割合全体の26.5%、男性の28.5%、女性の24.7%であった。「ある程度反映されている」「十分反映されている」は全体の23.8%、男性の28.3%、女性の20.4%であった。

回答者全体でみると平成20年度調査結果からほぼ変わっていないが、男女別でみると、男性はより「反映されていない」、女性はより「反映されている」という回答が増えていた。